

「関西発 『自粛』列島の風景」

かみで
上出 義樹

巨大地震は、日本中をまたも同じ色に染めてしまうのだろうか。未曾有の大災害と、高貴なお方の死に至る病では状況は違うが、昭和の終わりに列島を覆った、あの「自粛」ムード一色の悪しき日本的風景にだんだん似てきた。

そんな『空気』を感じていたところ、所用で訪れた奈良で4月5日付朝日朝刊文化面「『自粛』『不謹慎』同調圧力に警鐘」のタイムリーな記事が目にとまった。音楽公演への「不謹慎」「節電しろ」の批判や、作家の高橋源一郎氏が学生に「正しさへの同調圧力」に押しつぶされぬよう助言し、「不正」への抵抗に比べ「正しさ」への抵抗は「ひどく難しい」と語っていることなどを紹介する。

春爛漫の関西は、水道の放射能汚染も節電もなく、別の国のようにのどかだ。が、天然水はスーパーなどの店頭から消え、募金箱がいたるところに置かれている。東日本への支援は支援として、関西の笑いまでが「同調圧力」で消えることなどないよう願うばかりだ。

<筆者プロフィール> 北海道新聞で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員など担当。現在フリーランス記者。上智大大学院博士前期課程（新聞学専攻）在学中。